

## 第2回富良野市子ども・子育て会議議事録(要点筆記)

### 1. 開会

#### 【事務局】

- ・ それでは、定刻となりましたので、ただいまから第2回「子ども・子育て会議」を開始いたします。
- ・ 本日の出席者は委員14名中12名の出席であり、子ども・子育て会議設置条例の規定に基づき、委員の半数以上の出席を得ております。
- ・ また、本日はニーズ調査の集計・分析・推計を受託しております株式会社ぎょうせいの瀬尾主任研究員が出席しておりますので、ご報告いたします。
- ・ それでは、報告事項以後につきましては、青木会長の司会進行で取り進めます。

### 2. 報告事項

- ・ 別紙議案に基づき事務局から説明。
- ・ 委員からの質疑はなし

### 3. 議題

#### (1) ニーズ調査の結果について

#### (2) 富良野市子ども・子育て支援事業計画（計画策定の概要）について

#### 【会長】

- ・ それでは、議事の(1)ニーズ調査の結果について(2)富良野市子ども・子育て支援事業計画（計画策定の概要）につきまして事務局より一括して説明願います。

#### 【事務局】

- ・ 別紙資料2・3・4に基づき説明

#### 【会長】

- ・ これまでの説明につきまして、何かご質問、またはご意見はございませんか？

#### 【委員】

- ・ 現在、子どもを幼稚園に預けており嫁は働いていないが、将来的に働いてもらおうと思っている。
- ・ 夫婦がともに働いていれば、子どもが熱を出した時などちょっと預かってもらえる施設があれば助かる。

#### 【委員】

- ・ 保護者からは、親の就労時間と学童保育の開館時間があわないために、「いずい」という声を聞いたことがある。
- ・ 吹雪等の集団下校時には、学童保育の受入れができないため、共働き家庭の子どもを学校で一時的に預かったことがあるが、そのようなケースについて今後検討したほうがよい。

#### 【委員】

- ・ 冬は子どもの遊び場所がないため、家でテレビやゲームをやっている。
- ・ 特別な支援が必要な子に対する放課後の居場所施設も、親の就労時間に合わせた設定にしていきたい。
- ・ ニーズ調査では、意見の多いところに目が行きがちである。しかし、特別な支援が必要

なご家庭の意見は少数であるが、そこには必要不可欠なニーズがある。

**【会長】**

- ・幼稚園においても特別な支援が必要な子が増えており、職員の配置に各園は苦慮しているが、市としての今後の対応は。

**【事務局】**

- ・昨年の10月、市内4幼稚園に対して、支援が必要な児童に対する実態調査を行った。
- ・現在の私立幼稚園に対する障害児教育補助金は、療育手帳所持者や特別児童扶養手当受給者を対象に年間10万円の補助をしているが、決して多い額ではないので、実態調査を踏まえ、今後の検討課題としたい。

**【委員】**

- ・子育て支援センターを3年間利用しているが、先生もやさしくとても馴染みやすい。
- ・就園前の子どもと親たちで、緑町児童センターを利用しているが、小さな子が屋内で遊ぶところが少ない。
- ・ニーズ調査では、ファミリー・サポート・センターに関する意見がたくさんあったため、ぜひ富良野市でも取り組んでいただきたい。

**【委員】**

- ・ハコ物の話になるが、冬場に屋内で遊べる施設が必要であると思う。

**【委員】**

- ・ニーズ調査では、子育て家庭に対する「サポート」の意見が多くあったように思う。
- ・「何をサポートできるか」幼稚園でできることは幼稚園でやっていきたいし、それぞれができることから取り組む必要がある。
- ・様々な要望やニーズがあるが、費用負担の問題もあり、できることとできないことがあるし、大幅に見直さなければならぬものもある。

**【委員】**

- ・うちは自宅を使って託児所を開設しているが、人件費の問題で保育士を雇用することも難しく、保育料を上げることもできない。
- ・認可外私立保育所は長く続かないし、今後、存続していくことも難しい。
- ・市の認可保育所に入れなかった乳幼児が認可外私立保育所に流れてくるが、産休明けの乳児などうちでも見られない子のニーズもある。
- ・市の認可保育所の入所基準をもう少し柔軟に対応できるようにしていただきたい。

**【会長】**

- ・新制度では、保育サービスの量や質の拡充をいわれているが、一方で、企業側の務める側の体制を整えるようなトータルな視点で考えることも指摘されている。

**【委員】**

- ・ニーズ調査の自由意見では、ファミリー・サポート・センターや屋内の遊べる施設、保育所に関する意見が多かった。
- ・少数意見の中にも必要なものがあると思う。

### (3)新制度における私立幼稚園の選択肢について

#### 【会長】

- ・それでは、(2)新制度における私立幼稚園の選択肢につきまして事務局より説明願います。

#### 【事務局】

- ・別紙資料5に基づき説明

#### 【委員】

- ・幼稚園が認定こども園等を選択した場合、応諾義務が課せられるというが、特別な支援が必要な子に対して、園側の体制が整わないために、入園を拒否することもできないのか。

#### 【会長】

- ・国の議論経過では、当初、応諾義務は定員を超えた場合に拒否できる旨の内容であったが、特別な支援が必要な子どもの体制が整っていないために、「断っていけないわけではない」というふうにだいぶ変わってきている。

#### 【委員】

- ・応能負担はどのようなものか。

#### 【事務局】

- ・これまでの幼稚園は、親の所得に関係なく一律の保育料を徴収する応益負担であったが、施設型給付を選択すれば、親の所得により市が設定した段階的な保育料を徴収する応能負担となる。
- ・このことにより、保護者にとっては、幼稚園に預けようが保育所に預けようが、同じ額の保育料を負担することとなる。

#### 【委員】

- ・私立幼稚園が、4つの選択肢から判断するためには、きちんとした制度の理解をしたうえで決めなければならない。
- ・富良野市内の4つの幼稚園が、独断で決めるのではなく、お互いに相談したり、勉強会を開催したりしながら情報交換を行っていききたい。

#### 【会長】

- ・平成27年4月からスタートするためには、今年の4月に決断しなければならない。
- ・今まで幼稚園が受け入れていなかった0歳から2歳までの乳幼児をどうするかお互いに連携しながら考えていきたい。
- ・選択肢3の施設型給付を受ける幼稚園に移行した場合、今まで担っていた「預かり保育」はできなくなるといった弊害もある。
- ・いずれにしても、公定価格もわからず国の動向がはっきりしていない段階で、今は決めることはできないのが現実である。

### (4)認可外私立保育所補助金の改正について

#### 【会長】

- ・それでは、(4)認可外私立保育所補助金の改正につきまして事務局より説明願います。

#### 【事務局】

- ・別紙資料6に基づき説明

#### 【委員】

- ・今のままで認可外私立保育所はやっていけるのかなと思っていた。
- ・市の補助基準を改正していただきありがたい。

#### (5)次回の子ども・子育て会議について

##### 【会長】

- ・続きまして、次回、第3回目の子ども・子育て会議の開催につきまして事務局より説明願います。

##### 【事務局】

- ・今後のスケジュールといたしましては、ニーズ調査の速報値を分析し、幼児教育や保育、子育て支援の量の見込みを推計するために、1か月半を要します。
- ・そのため、次回、第3回目の子ども・子育て会議は3月下旬、3月19日からもしくは27日に予定しておりますので、日時がはっきり決まりましたら、あらためてご案内させていただきます。

##### 【会長】

- ・それでは、次回の子ども・子育て会議につきましては、3月下旬ということによりしくお願いいたします。

#### 4. 閉会